

鹿屋体育大学倫理審査小委員会 オプトアウト書式

今回の研究の実施にあたっては、鹿屋体育大学倫理審査小委員会の審査を経て、許可を受けています。この研究が許可されている期間は、令和7年6月30日までです。

①研究課題名	ある大学女子バスケットボール選手が体得しているフェイクを用いたパスカットによるスティール技術の特徴について
②対象者及び対象期間	九州大学バスケットボール連盟が2021年10月2日から10月17日までに開催した、2021年度第28回全九州大学バスケットボール女子1部リーグ戦（計21試合）における7チームの登録選手156名のうち、①ドリブルスティール、②持っているボールをスティール、③パスカットのいずれかを試合中に成功させた64名を対象にします。
③概要	本研究の目的は、バスケットボールのディフェンスにおける個人技としてのスティール技術を明らかにすることです。K地区大学女子バスケットボール1部リーグ戦における全てのスティールシーンのゲームパフォーマンス分析を行うことで、A大学女子バスケットボール部X年a選手の体得しているフェイクを用いたパスカット（フェイク→パスカット）によるスティール技術が、他の選手が使用していない技術であることを明らかにします。そして、当該シーンを図示して技術分析を行い、a選手のスティールまでの過程を振り返ることにより、共通するコツ等を検討します。本研究で得られた知見は、バスケットボールのディフェンスにおける個人スキルの向上に役立てることができると考えます。
④研究の目的・意義	a選手は、一流選手が実施するディフェンスプレイヤーがフェイント行為を行う最終目標として、“ボールを奪う”ための駆け引きを日常の練習や試合で行っています。本研究で取り扱うフェイク→パスカットによるスティール技術を公式試合中に実施したシーンについて検討し、得られた知見を提供することは、特に同一カテゴリーに所属する選手等にとって、更にスティールを獲得するための技術として有益ではないかと考えます。これまでバスケットボールにおいて一流選手が感覚的に実施してきたと思われる、フェイク→パスカットによるスティール技術について事例的に記述することにより、ディフェンス時の個人技術の向上に役立つ有益な情報を得ることを目的としています。
⑤研究期間	2025年3月21日から2025年6月30日まで
⑥情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	当初は九州大学バスケットボール連盟（九州学連）がインターネット配信（公開）した試合映像を、課外活動における競技力向上の一環として教育目的で取得しました。これらの映像を研究目的として、ディフェンス時のスティールシーンについてゲームパフォーマンス分析を行うために転用します。映像の画質については、選手の表情が把握できないレベルであり、データ入力時にはユニフォームと背番号とで識別します。得られた映像は使用後に削除する旨での承認を、九州学連から得ています。
⑦利用または提供する情報の項目	調査属性〔女性、大学1～4年生〕、調査項目〔バスケットボール競技における試合時のスティール（オフェンス選手からディフェンス選手がボールを奪う）の映像シーン：①ドリブルスティール、②持っているボールをスティール、③パスカット〕、調査結果〔スティール回数5回以上の選手ランキング（チーム名（特定されないよう大文字英字で表

	記)、選手名(特定されないよう小文字英字で表記)、スティール回数)、❶～❸の回数)、a選手がフェイク→パスカットを成功させたシーンについての図解]
⑧利用の範囲	鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系 教授 三浦 健 鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系 助教 前村かおり
⑨研究試料・情報の管理について責任を有する者(お問い合わせ先)	鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系 教授 三浦 健 Tel : 0994-46-4984 E-mail : k-miura@nifs-k.ac.jp
⑩事務局	鹿屋体育大学 研究・社会連携課 研究支援係 Tel : 0994-46-4871 E-mail : kokusai@nifs-k.ac.jp

以下は、過去に承認されたことがある場合

⑪承認番号	
⑫過去の研究課題名と研究責任者	